

平成30年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第3回）【概要】

日時：平成30年11月29日（木）午前10時から正午まで

場所：千葉県教育会館 会議室604

1 出席委員（敬称略・名簿順）

藤田 和弘、廣部 泰紀、渡部 徹、本山 哲也、関根 寿典、佐久間 勝彦、
田中 庸恵（委員長）、齋藤 明（副委員長）、花島 和宏、大田 紀子

2 次第

（1）開会のことば

（2）県教育委員会あいさつ

（3）委員紹介

（4）報告

①平成30年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第2回）の概要について

②平成32年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について

③平成30年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会専門部会からの報告について

④その他

（5）協議

①平成33年度千葉県公立高等学校入学者選抜以降の選抜方法等の在り方について

②その他

（6）閉会のことば

3 協議内容（→：事務局）

（1）平成33年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について

→・専門部会の主査から、資料4「平成33年度千葉県公立高等学校入学者選抜以降の選抜方法等について（試案）」について説明する。

・「1 改善の方向性等」について

3月の教育委員会会議で議決された改善方針では、現行の入学者選抜の理念を継承しつつ、これまで前期・後期の2回実施していた入学者選抜を「本検査」として入学者選抜の実施時期を遅らせるとともに、やむを得ない理由により本検査を受検できなかった者に対し、受検機会を保障するため「追検査」を設ける、また、実施時期は、受検生への周知期間などを考慮し、平成33年度入学者選抜以降から実施する方向で発表した。

・「2 選抜方法等」について

選抜方法は、これまでの千葉県の入試改善の方向性のおり、学習の成果に加え、生徒の多様な能力・適性、意欲、努力の成果、活動経験等の優れた面を多角的に評価できる選抜とする。各高等学校では、「期待する生徒像」に基づいて、選抜・評価方法を定め、学校の特色を生かした選抜を実施するものとし、選抜・評価方法には、各選抜資料の取扱いなどを具体的に示すとともに、選抜の手順等をわかりやすく記載する。また、これまで通り、海外帰国生徒、外国人生徒等についても、他の生徒との公平性等を考慮しつつ、適切な配慮のもとで行う特別入学者選抜を現行のおり実施する。以上のことを踏まえ、選抜方法の試案は、「学力検査の成績」、「第2日の各高等学校が定める検査の結果」、「調査書」等を資料とし、各高等学校が総合的に判定するとした。また、選抜資料は原則として得点（数値）化するものとし、各高等学校は、選抜の手順等を、選抜・評価方法において公表する。選抜方法の具体的なイメージとして、総得点に基づくイメージ1と、二段階によるイメージ2を示した。次に、調査書の評定の扱いについて説明する。前期選抜では、調査書の得点に用いる評定は、各中学校の評定の合計値の平均を95点に換算した値を用いることとしている。また、後期選抜では、B組を判定する際に、補正した調査書の評定を2倍、3倍している学校もある。算式が使用されるようになった背景は、平成15年度の中学校の絶対評価の導入後、中学校評定合計平均値が高くなる傾向があった。こうしたことから、平成20年度の選抜から算式が導入されることとなった。これまでの専門部会で挙げられた意見は、「補正をしない

で、kの値を変えたらどうか」、「算式を使わないで、学校が調査書の重みや割合を変えたらどうか」、「最近は中学校の評価も落ち着き、平均が低い中学校が増えてきたのではないか」、「算式で調整されて学力検査で点数を取った生徒が落ちて、点数を取らなかった生徒が受かり算式を続けることに疑問がある」、「満点が変わることに違和感がある」などの意見があった。入試改善協議会の中でも、「県の基準より大きくなる中学校では不利益になる場合がある」、「生徒が一生懸命頑張っているのに、引かれるのは疑問に思っている」、「保護者への説明が非常に難しい」、「評定合計平均値の基準はもう考える必要がないのではないか」などの御意見や御要望をいただいた。専門部会や入試改善協議会での意見、生徒によって満点が変わり不利益を被ることの懸念があることや、中学校間の評定の付け方の差は小さくなっていること、最近は安定していること、以上のことなどを踏まえ、県として統一した補正は実施しないことを試案とした。

・「3 本検査」について

前回報告したものと変更はない。第1日は、国語、数学、英語の3教科の学力検査を実施する。現行制度と同様に、国語の問題には、放送による聞き取り検査、英語の問題には、放送によるリスニングテストが含まれる。第2日は、理科と社会、2教科の学力検査と、各高等学校が定める検査を実施する。学力検査の検査時間は、国語、数学、理科、社会は各50分、英語は60分、学力検査ごとの配点は、現行と同じ、各教科100点とした。検査時間割は、第1日、第2日両日とも、現行より45分遅い9時30分を集合時刻とし、午前中2教科、午後については、第1日が英語1教科、第2日は各高等学校が定める検査をそれぞれ実施する。

・「4 追検査」について

改善方針で発表されている選抜結果の発表を(5)に加えた。他は前回の報告と変更点はない。

・「5 定時制の課程の入学者選抜」について

定時制高校は、従来からの勤労青少年に加えて、全日制からの転・編入生徒や過去に高校教育を受けることができなかつた者など、多様な入学動機や学習歴を持つ生徒が増えている。このような状況を踏まえ、検査内容は5教科又は3教科とし、各高校が自校を志願する生徒を考慮して定めることができるとした。検査時間割は、本検査第1日英語終了後に各高等学校が定める検査を実施する。ただし、三部制の定時制の学校のように、志願者の多い学校が3教科で実施し、その後の検査が1日目にすべて終えることは難しいと思われるので、2日目にも検査を実施することができるとした。

・「6 通信制の課程の入学者選抜」について

現行の通信制の課程の選抜日程について御説明する。現在は一期から五期まで5回の選抜を実施している。平成31年度選抜にあてはめると、一期は前期選抜の2日目、2月13日、二期は後期選抜と同じ2月28日、三期は第2次募集と同じ3月13日、四期は毎年4月上旬(4月9日)に、五期は9月上旬(9月6日)に実施する。5回の選抜を実施しているが、第2次募集と同じ日程で行われる現行の三期、4月に行われる四期も例年一定数の受検者がいること、五期は秋季入学であることなどを踏まえ、生徒にとっての受検機会の確保を考慮して、4回の選抜実施を試案とした。検査内容は現行のとおりとした。検査時間割について、一期は本検査と同じ日程だが、本検査の第1日の時間割に合わせて実施することを試案とした。

・以上、専門部会において作成した、ここまでの試案について、御意見をいただきたい。

・初めに「1 改善の方向性」から「6 通信制の課程の入学者選抜」まで質問を受けたい。

・(選抜方法等について)それぞれの学校がイメージ1でやる、イメージ2でやるか決めるでよいか。

→各学校で適切なものを実施していくというイメージである。

・各学校でイメージ1をとるか、イメージ2をとるかバラバラになる。

→あくまでもイメージとして二つ出した。わかりやすいものを二つ専門部会から出してもらったということである。

・それぞれの学校がイメージ1で、もしくはイメージ2でやることを明示するということがよいか。

→専門部会での流れはそうである。

- ・イメージ2の場合、70%は総得点が685点、残りの30%は845点でやる、調査書の評定は135点にするのと270点にする、調査書の加点が20点プラスと30点プラス、第2日の検査が30点と45点にするというのは、イメージ2で行う学校はすべてこれで行くということか。各学校で決まるのではないのか。
 - ・事務局からもあったが、各学校でそれぞれ決めるべきものであるということが専門部会で話が出た。70、30とか、ここに出ている135-270、50-75は、あくまでも考えるための一つのイメージと捉えて、これから各学校で詰める話である。70-30でやってくださいとか、そういう意味ではない。
 - ・イメージ1は全部これだが、イメージ2の場合は80%とりますという学校もあれば、90%もあるし、60%もある。それぞれ多様になることを認めるということか。
 - ・改善の方向性等を読んでいくと、選抜を行う際に各学校の特色に応じて生徒の多様な能力・適性、努力の成果等の優れた面を多元的に評価できる選抜とする、とあるので、これに基づいてイメージを示したので、各学校で決められる裁量があるところまでが専門部会で示したところである。
 - ・かなり自由だが、学力検査の点数は同じ問題でやるから同じだが、調査書の評定が学校でまちまちだとどうか。
 - ・現行でも調査書を見て中学校の時の生徒の活動ぶりを評価するので、それに従って、このようなイメージ図が出てくるということになる。
 - ・単純にそれぞれの学校でいろいろな選抜方法、評価方法があるなかで、サンプルを示していただいたと、このイメージを拝見した。ここに当てはめるのではなく、いろいろな考え方があるうちの、考え方を示していただいたと理解して見ている。あくまでもサンプルであると受け止めたが、そういう受け止め方で大丈夫か。
 - ・専門部会の性格づけから「こうする」というものではないので、話し合ったなかで、このような改善で行けるのではないかということで、わかりやすく示したものである。
 - ・項目ごとに意見を伺いたい。初めに「1 改善の方向性等」はいかがか。続いて、「2 選抜方法等」でプラスアルファで何かあるか。
 - ・イメージ1で「募集人員までを入学許可候補者として内定する」、イメージ2の方も「募集人員までを入学許可候補者として内定する」と明確に書かれている。募集人員が400名であったところには、最大でも400名しか入学許可候補者として内定しないという理解でよろしいか。これまでは400名のところ10名くらい多く内定している。そのことについて私学側から「そのようなことはやめてもらいたい」募集人員厳守、遵守と言っているが、これは明らかに「までを」と言っているから超えることは無いということによろしいか。
- 毎年定員を遵守するよう、県教委から通知を出している。
- ・現実的に超えて入学許可候補者を内定して通知しているところがあるが、そういう学校に対してははどうするのか。
- 引き続き、これまでの指導の経緯を含め、学校への指導を継続していく。
- ・校長会でも毎年「徹底している」と言われるが、徹底されていない。前年度の場合も募集人員を超えて内定している。募集人員を超えている学校、内定を通知している学校がある。
 - ・現状を言うと、前期選抜では完全に守られている。後期においては、本校もそうだが数名だけプラスアルファで合格を出している。後期選抜は最後のチャンスであるということと、本当に甲乙つけがたい、並んでしまっている、という場合だけプラスアルファをしている状況である。
 - ・同点だからということか。「までを」と書くのであれば、それを超えるのはいけないと言ったほうがよいと思う。
 - ・選抜方法について、とてもシンプルになったと、わかりやすくなったと感じた。イメージ2については、各高校の自由度を大きく設定されているので、期待する生徒像に沿った選抜がしやすいと感じている。イメージ1だと尺度は一つだが、イメージ2だと各学校の裁量で、例えばここまでの割合については勉強で頑張ってきた子を、それとこれから頑張ろうとしている子を受け入れたい、ある割合については特別活動や部活動で頑張ってきた子を、それとこれから頑張ろうとしている子を重視して受

け入れたい、というようなことができると思われる。選抜の公平性を保つことはもちろんだが、現在の選抜の様子までも踏まえて、どのくらいまでが各校の裁量とされるのか、できるだけ自由度を広げて検討していただければと思う。高校によって実情、特徴も違う。入学者選抜においては高倍率の学校から、生徒募集に苦しんでいる学校もあるので、そういうところも含んでいただければと思う。調査書の評定だが、高校としては算式による評定の補正はもう必要ないのではないかと考えている。中学校で絶対評価が導入されてしかるべき時間も経ち、資料として使わせていただいていたが、すっかり定着というようなものができているので、もう算式の役目は終えた、終わっても良いのではないかと考えた。ただし、今後も評定の平均値は見守っていく必要があるかと考えている。

- ・「1」から「6」まで終了する。（「3」から「6」まで意見なし。）

引き続き、試案の「7」以降の説明をお願いします。

- ・特別入学者選抜について

海外帰国生徒の特別入学者選抜について、募集人員と志願要件は現行のとおり変更はない。検査内容は、現行では、選抜を実施する高等学校が定めることとしているが、現状では、ほとんどの学校で、5教科の学力検査を課している。専門部会では、「海外帰国生徒は海外で暮らしてきたハンディがあるので配慮したほうがよいのではないか」などの意見があった。これを踏まえ、試案では、実施する高等学校において3教科の学力検査と、各高等学校が定める検査を実施することを案とした。検査時間割は、本検査第1日に、3教科の学力検査実施後、各高等学校が定める検査を行い終了する時間割とした。外国人、中国等帰国生徒、成人の各特別入学者選抜についてである。募集人員、志願要件、検査内容は、現行のとおり変更はない。検査時間割は、現行では前期選抜の2日目に実施しているが、試案では、本検査1日目の午後に実施することとした。連携型高等学校の特別入学者選抜についてである。検査内容は、現行では、連携型高等学校が定める検査として、検査1日目に国語、数学、英語の3教科の学力検査と2日目に面接を実施している。試案も現行のとおりとしたので、検査時間割は、現在と同じ検査内容を実施校が定めた場合の参考の時間割として示した。

- ・第2次募集について

(1)の実施する課程及び学科から(3)検査内容までは現行と変更はない。検査時間割は、本検査の時間割に準じ、集合を9時30分、検査開始を10時10分からとした。また、定時制の課程において、第2次募集を行っても入学許可候補者が募集定員に満たない場合には、現行と同様に追加募集を行うこととした。

- ・地域連携アクティブスクールの入学者選抜について

現行の検査内容は、前期選抜と同じ日程で実施している一期入学者選抜が第1日に3教科の学力検査と作文、第2日に各学校が定めた検査を、後期選抜と同じ日程で実施している二期入学者選抜は、学校ごとに異なる検査を実施している。試案では、検査内容は現行と同じ各高等学校において別に定める検査とし、検査時間割は、現行の一期と同じ検査内容を実施校が定めた場合の参考の時間割として示した。また、第2次募集も実施する。

- ・秋季選抜について

(1)の募集人員は、午前部、午後部、夜間部のそれぞれについて、募集定員から転入学等の予定人員を減じた人数の5%以上20%以内で各学校が定めている。実際の選抜率は、実施校2校とも、例年5%としている。募集人員を上回る志願者がいない状態が続いていることを踏まえ、試案では、5%程度とした。検査内容については現行のとおりとした。

- ・専門部会主査からすべての試案の説明があった。「7」から「14」まで御意見を伺いたい。（意見等、特になし。）

- ・本日の意見を踏まえ、事務局で準備を進めてもらいたい。